学　び　舎（まなびや）

～清和台南小学校　学校通信　第４号～

平成２８年７月８日

ちがいを認め合う～ハートハッピー週間～

清和台南小学校では学期に一度、教職員と児童の人権意識を高める活動として、「ハートハッピー週間」を設定しています。１学期は６月の13日（月）～17日（金）までの一週間でした。

3年掲示版

この期間中、児童は「学校中のみんなのハートがハッピーになるような１週間を過ごそう」というねらいをもって、各学年の発達段階に応じて、自分にできることを考え、行動します。各分掌や委員会などもそれぞれの特色を活かして、全児童にハートハッピー週間の啓発を行います。

まず、中心となる人権部は啓発ポスターを制作し、校内数か所に掲示します。学年の掲示板にもハートの形を学年カラーの画用紙で印刷し、それに「修学旅行先でのホットエピソード」や「感謝メッセージ」など、それぞれのテーマで児童が書いたものが掲示されています。

「学び合い」

他に、お昼の放送では心がちょっと温かくなったエピソードを披露したり、ハッピーになるような図書を紹介したり、給食ではラッキー人参を期間中ハート型のハッピー人参にしたりするなど、校内で協力連携しながら、この取り組みを進めています。

６月は天候が不順になりがちな上に４月・５月の疲れが出て、どうしてもイライラしてしまったり、それが原因でトラブルが起こったりしがちです。その時期に、お互いの違いを認め合い、良さを認め合う、「ハート・ハッピー週間」を設定して、全校挙げて取り組むことには大きな意味があると思います。

職員室前の掲示板には「ほんわかの木」があり、その葉っぱ一枚一枚には、心がほんわかするエピソードが子どもたち自身の字で書かれています。

ほんわかの木

「自分が竹馬をしている時、友だちが『がんばれ』とおうえんしてくれた。」「こけたときに、はんちょうがほけんしつまでつれていってくれた。」など、さまざまな出来事とその時感じたことがそこには素直に書かれています。

このように、いつもなら見過ごしてしまいそうなエピソードに目を向け、あらためて自分が認められていることを知り、そこから他人を認めることの大切さを知っていく、「ハートハッピー週間」はこれからも本校で大切にしたい取り組みの一つです。

平和を学ぶ～6年生修学旅行～

６月７日（火）８日（水）の二日間、６年生は広島・宮島方面へ修学旅行に行きました。

原爆ドーム（広島県産業奨励館）

１日目の広島平和祈念資料館では班行動で平和学習を行いました。特に見学後に聞いた被爆された方の体験談は多くの児童にとって心に残るものになりました。

お話ししてくださったのは13歳の時に被爆して現在83歳になられる、そして清和台南小学校の修学旅行で毎年お世話になっている方でした。

「８月６日、小学校の運動場で原爆投下の被害に遭い校舎の下敷きになって、ようやく瓦礫の下から這い出しました。とにかく家に帰ろうとしてもすべてが破壊され帰る道がわからず、あちこちの瓦礫の下からはうめき声が聞こえてきました。」

淡々とした語り口だからこそ、かえって起きた事実の重さを直接感じた、印象的なお話でした。

修学旅行報告会

６年生は修学旅行後、学習したことや感じたことなどをそれぞれまとめ、６月20日（月）の人権参観日の授業で、クラスの仲間や保護者の方々を前に、それぞれの言葉で平和について考えたことを発表しました。

また、６月24日（金）の児童朝会では、代表委員を中心に、スライドを使って全校児童に修学旅行の報告を行いました。

どちらの報告会でも学校のリーダーとして主体的に取り組んでいた６年生。学んだことを日常の生活の中でも生かしてほしいと思うとともに、中学校での長崎修学旅行での学習に結びつけ、次代の日本のあり方について考えるきっかけにしてほしいと願っています。

身近なところから　～ことばづかい～

このように人権や平和について、それぞれの学年が成長過程に応じて取り組み、一定の成果も感じられるようになっています。しかし一方で、身近な生活の中から見直していかなければならないこともあるように思います。

その一つが「ことば」です。授業中や先生・職員、地域の方々に対してのことばづかいはそれほど気にならないのですが、友だち同士での何気ない会話でのことばを聞いていると、思わず「えっ！」と感じるような場面があります。

相手を傷つけるような冗談や乱暴なことば、生命に関することばや外見・容姿に関することばなど、自分や友達との間ではあまり問題になっていないのかもしれませんが、それでもやはりことばが持つ意味をしっかり考えて話すことが大切です。学校ではもちろん、ご家庭でも今一度使っていることばづかいについて考えてみてください。